

# 道民カレッジほっかいどう学大学インターネット講座

## 「子どもの貧困・母子家庭の困難～私たちができる支援とは～」

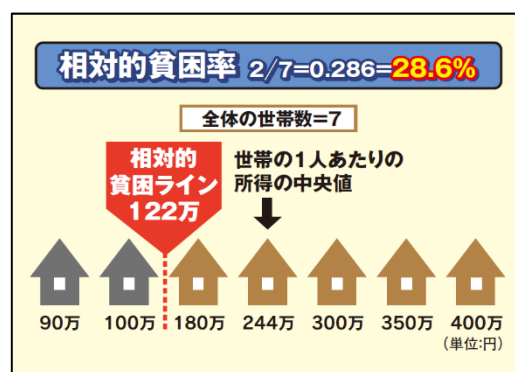
北海学園大学 経済学部 中園桐代 教授

### ◇ 講座の内容 ◇

- ・「貧困」状態にある子どもたちを、「かわいそう」と同情することはないでしょうか。
- ・一方で、その親に対しては、「親はちゃんと働いているのだろうか」、「責任をもって子どもを育てているのだろうか」と疑問を感じたこともないでしょうか。
- ・実は、シングルマザーの8割は働いており、労働時間も長いため、母子家庭の子どもが置かれている状況は、非常に厳しい。
- ・この講座では、それらの現状を踏まえた上で、なぜ「子どもの貧困」が生まれるのか、私たちは何をすべきかを考える。

### ◆ 貧困とは ◆

- ・国際的には、貧困には2つの考え方がある。
- ・ひとつは「絶対的貧困」、1日1.9ドル以下で暮らすこと。
- ・もう一つは「相対的貧困」（貧困の人の割合をパーセントで表したもの）、世帯収入から子どもを含む、一人当たりの所得をOECDの計算方法で、計算する。
- ・この図は、7世帯の地域があるとして、一人当たりの所得を少ない方から多い順に並べている。
- ・真ん中の収入244万円が中央値となり、その半分、122万円が貧困ラインになる。
- ・122万円未満の2世帯が貧困ラインに満たないので、7世帯中2世帯、28.6%が、この地域の貧困率になる。

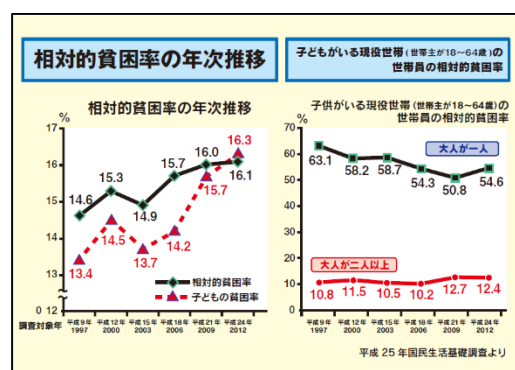


### ◆ 子どもの貧困とは ◆

- ・子どもの貧困率は、18歳未満でこの貧困ラインを下回る人の割合を指す。
- ・この講座を含め、私たちが「子どもの貧困」という時は、多くの場合この『相対的貧困』を問題にしている。

### ◆ 日本の子どもの相対的貧困率 ◆

- ・厚生労働省が発表した『国民生活基礎調査』
- ・日本の子どもの相対的貧困率は2012年に16.3%に達した。
- ・「子どもの6人に1人が貧困」と言われるのは、このデータを元にしてしている。
- ・貧困率が低い国は国の政策によって貧富の差が少なく、高い国は格差の大きい国といえる。
- ・OECDの中で、最も子どもの貧困率が低いのは、アイスランドで4.7%、フィンランド5.3%。
- ・日本の貧困率が非常に高い事が分かる。
- ・より深刻なのは「大人が1人」のひとり親世帯。



- ・ひとり親世帯では、半数以上 54.6%の子どもが貧困に陥っている。そして、この貧困率はOECDの中で最悪のもの。

### ◆ひとり親世帯の経済状況◆

- ・子どものいる世帯と母子世帯を比較すると、母子世帯の児童扶養手当を含んだ年間総所得は 235 万円（児童のいる世帯の 34%）、稼働所得（就労収入）が 174 万円で 26%にとどまる。
- ・平均すると母子家庭の月の収入は 20 万円程度で、この中から家賃や公共料金、食費、さらに子どもの教育費を捻出するのは大変。

(単位:万円)

所得の種類別1世帯当たり平均所得金額			
	総所得	稼働所得	年金以外の 社会保険給付金
全世帯	528.9	382.0	7.1
児童のいる世帯	696.3	633.9	17.3
母子世帯	235.2	174.8	44.1

平成26年国民生活基礎調査より

### ◆シングルマザーの現状◆

- ・母子世帯が増えている。
- ・平成 22 年、母子世帯は 76 万世帯、父子世帯は 9 万世帯で、この 20 年間で、母子世帯は 50 万世帯から、およそ 1.5 倍に増えている。
- ・祖父母などの同居者がいる世帯も含めた母子世帯は 108 万世帯、父子世帯は 20 万世帯となって、20 歳未満の子どものいる全世帯は 1290 万世帯。
- ・子どものいる世帯の約 1 割が「ひとり親世帯」となっている。

「ひとり親家庭」の世帯数		
	母子のみの母子世帯数	父子のみの父子世帯数
2010年	約76万	約9万
1990年	約50万	約10万

2010年 20歳未満の子どものいる世帯数		
約1290万		
	母子世帯数	父子世帯数
他の世帯員がいる世帯を含む「ひとり親」世帯	約108万	約20万

国勢調査より

### ◆母子世帯になった理由◆

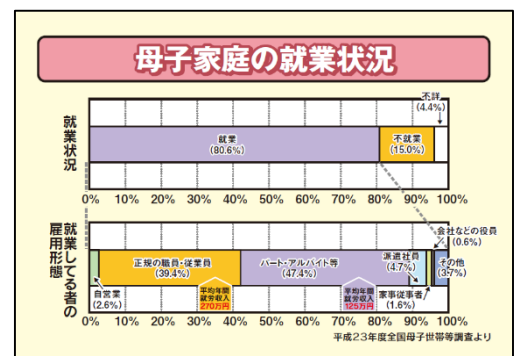
- ・離婚が約 8 割、死別が約 1 割
- ・父子世帯では、離婚が約 7 割、死別が約 2 割
- ・離婚の原因は、女性の場合、夫からのDV、家庭内暴力が原因である事も多く、軽い気持ちで離婚が選ばれている訳ではない。

### ◆シングルマザーと子どもの平均年齢◆

- ・平均年齢は 39 歳で、一番下の子どもは平均 10.7 歳。
- ・母子世帯になった時の母の年齢は平均 33 歳、一番下の子どもの年齢は平均 4.7 歳、子どもが未就学児のうちに離婚しているケースが多い。
- ・シングルマザーが働くためには、保育所などの子育て支援がとても重要になる。

### ◆シングルマザーの労働◆

- ・母子世帯の 80.6%が就業している（OECD 統計）、アメリカ 66.4%、イギリス 52.7%と比べても、非常に高くなっている。
- ・「高い就業率と貧困」が日本のシングルマザーの特徴と言われている。
- ・日本の就労率は非常に高い。
- ・パート・アルバイトで働いているシングルマザーが 47.4%と約半数で最も多くなる。
- ・一方、正社員で働くシングルマザーは 39.4%と 4 割未満。



### ◆北海道の現状◆

- ・正社員として働くシングルマザーの割合は、全国で39.4%、北海道では29.7%と、全国に比べて、北海道の方が低くなっている。
- ・逆に、非正規社員として働くシングルマザーの割合は、全国では52.1%なのに対して、北海道は61.2%と高く、未就業や非正規で働くシングルマザーの割合が、全国に比べて高い。
- ・このように、北海道の母子世帯の状況は、さらに深刻と言える。

シングルマザーの就業率			
		(単位:%)	
	全体	正規職員	非正規職員
全国(H23)	80.6	39.4	52.1
北海道(H24)	76.5	29.7	61.2

北海道分：(公財)北海道民生委員児童委員連盟調査  
ひとり親家庭(父と子・母と子の家庭)の生活と意識に関する調査より  
全国分：厚生労働省 全国母子世帯等調査より

### ◆北海道の母子世帯の状況が深刻な原因◆

- ・学歴や北海道の企業の採用状況にかかわるので、簡単に説明できないが、日本の雇用慣行では、正社員は大卒等の新卒から採用する企業が多いので、結婚や出産で一旦仕事を辞めた女性が、再就職で正社員になるのは、難しいのが現状。
- ・日本では正規・非正規の格差が非常に大きい。

### ◆シングルマザーの賃金◆

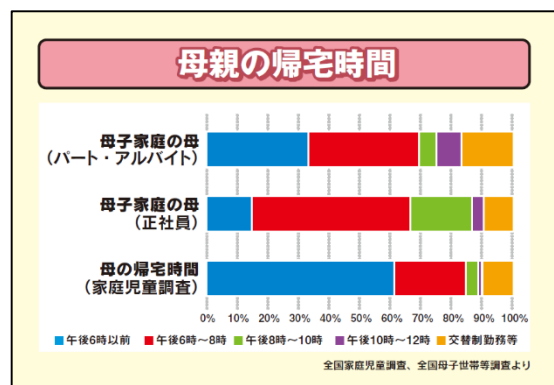
- ・シングルマザーの平均の年間就労収入は、正社員 270万円、パート・アルバイト 125万円で、大きな差がある。
- ・しかし、相対的に恵まれている正社員シングルマザーと『賃金センサス』では差が生まれている。
- ・シングルマザーの正社員の年間就労収入 270万円に対し、『賃金センサス』で30代後半の女性正社員の年収は、約417万円で、その差は147万円にもなる。
- ・結婚や出産で1回退職したシングルマザーは、いわゆる「名ばかり正社員」のような、正社員の中でも条件の厳しいところで再就職している可能性がある。
- ・一方、パート・アルバイトのシングルマザーの年間就労収入は125万円。
- ・『賃金センサス』の30代後半の女性パートの平均年収は120万円、配偶者控除の枠内で働く女性が多いのを考えると、パート・アルバイトでは、シングルマザーの年収の方が高くなる。
- ・経済的自立を求められるパート・アルバイトのシングルマザーが長時間労働をしている。

シングルマザーの平均年間就労収入		
シングルマザー	正社員	270万円
	パート・アルバイト	125万円
30歳代後半の女性	正社員	417万円
	パート・アルバイト	120万円

平成23年賃金構造基本統計調査(賃金センサス)、全国母子家庭等調査より作成

### ◆シングルマザーの帰宅時間◆

- ・働いている母親の6割は午後6時前に帰宅しているのに対し、シングルマザーは午後6時以降に帰る者が圧倒的に多い。
- ・正社員シングルマザーの帰宅時間は午後8時までと午後10時までが多い。
- ・夕飯や入浴や就寝時間が、後ろにずれ込むので、子どもの生活リズムに影響がある。
- ・親の帰宅時間が遅いのに子育て支援が受けられる時間が限られる。
- ・仕事をしていないシングルマザーのうち、9割は就業



を希望しており、約4割が就職活動中。

- ・ 仕事をしていないシングルマザーのうち1/4が「病気で働けない」、1割が「子どもの世話をしてくれる人がいない」と、調査に答えており、ここでも子育て支援が求められている。

### ◆ひとり親家庭の子どもの進学◆

- ・ 『学校基本調査』による中学卒業後の進学率が98.4%、ひとり親家庭の子どもの進学率は93.9%。
- ・ 『学校基本調査』による高校卒業後の進学率は70.1%、ひとり親家庭の子どもの進学率は41.6%。
- ・ 中学、高校卒業後は、いずれも、ひとり親家庭の子どもの進学率は低いが、特に高校卒業後は、大学、短大といった進学先を選ぶ学生が大幅に少ない。
- ・ 学力が問題で進学ができないことも考えられる。
- ・ 現在では、全体の子どもたちの7割以上が、学習塾、習い事、通信添削といった何らかの学校外の学習活動を利用しているという調査結果がある。
- ・ 中学3年生の学習塾のひと月の月謝は25,000円～30,000円が最も多く、単純に12倍すると年間30～36万円の支出になる。
- ・ これは先ほど見たように収入が少ないシングルマザーにとっては、大変大きな負担になる。
- ・ 勉強する場所が家の中にない、子どもの学習の環境が整っていない、そして大学進学では入学金や授業料が高いことが進学を抑制する理由として考えられる。

ひとり親家庭の子どもの進学				
『学校基本調査』(H23.3)の 中学卒業後の進路	進学率	高等学校	高等専門学校	就職率
	98.4%	98.2%	0.2%	0.4%
ひとり親家庭の子どもの 中学卒業後の進路	進学率	高等学校	高等専門学校	就職率
	93.9%	92.8%	1.1%	0.8%
『学校基本調査』(H23.3)の 高校卒業後の進路	進学率	大学など	専修学校など	就職率
	70.1%	53.9%	16.2%	16.3%
ひとり親家庭の子どもの 高校卒業後の進路	進学率	大学など	専修学校など	就職率
	41.6%	23.9%	17.8%	33.0%

学校基本調査、子どもの貧困対策に関する大綱より

### ◆子どもへの影響◆

- ・ 親が忙しい分、こどもも影響を受けている。
- ・ パートのシングルマザーの場合、前の月にシフトが決まってしまうので、子どもが急な病気でも仕事を休むことができない。
- ・ 休めばその分収入が減ってしまい、職場では代りに働いてくれる人がいない。
- ・ そのため、年上のきょうだいが学校を休んで下の子の看病をすることもあった。
- ・ 他のパートをするシングルマザーは、体調の悪い小学生の子どもを一人で留守番させて出勤しなければならず、「お菓子は要らないからお母さんが家にいて欲しい」と泣かれたこともあった。
- ・ 母子家庭の子どもたちは、保育所や学童保育等の公的な支援が利用できない時、誰にもケアしてもらえない場面に直面している。
- ・ 待機児童が多く、シングルマザーでも保育所を利用できない人もいる。
- ・ シングルマザーの多くは一生懸命働いているが、収入が伸びず経済的には厳しい状況。
- ・ 子どもたちも経済的な部分や日常のケアで影響を受けている事も多い。

### ◆私たちができる支援◆

- ・ 「ファミリーサポート事業」

札幌市社会福祉協議会の「さっぽろ子育てサポートセンター」は、子育ての援助を受けたい人、援助したい人によって会員組織をつくり、地域の人が子育て家庭を支援する仕組みを作っている。

- ・ 援助をしたい人は事前に講習を受ければ、保育士等の専門資格がなくても「提供会員」になれる。
- ・ 「さっぽろ・まなトピア」

シングルマザーの団体「札幌市母子寡婦福祉連合会」が行っている、さまざまな子育て支援の1つ。

「私たちができる支援」の事例を紹介します。(さっぽろ・まなトピア)

## ◆さつぼれん◆

- ・ひとり親家庭の支援のために、保育所や学童保育が利用できない日曜や祝日に、子どもを預かるホリデーマム、高校生への奨学金給付事業やひとり親の子どものためのレクリエーション事業等も行っている。

市民が主体となっている非営利組織、「NPO団体ねっこぼっこのいえ」を紹介します。

## ◆まとめ◆

- ・このように地域では様々な子どもの支援が行われている。では、私たちは何をすればいいのでしょうか？
- ・時間が許せばいろいろな活動にボランティアとして参加してみるのもよいだろう。
- ・子どもの支援を行っている法人等に寄付をすることでも支援できる。
- ・日本では子どもを育てる責任は親にあると考えがち。
- ・しかし、親が頑張っているにもかかわらず厳しい環境におかれている子どもがいるのもまた現実。
- ・私たちが地域社会で少しずつできる支援を行う事によって、子どもを支え、そして子どもを育てる親も支える事ができる。